

平成二十七年 度 入 学 試 験 問 題

国 語

第 一 回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。(八時五〇分～九時四〇分)
- ・ 問題は一ページから七ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗 足 学 園 中 学 校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

小学校三年生の娘の「道徳」の教科書をばらばらとめくっていると、⁽¹⁾「ハッピーマナー」というタイトルの面白い話が載っていました。電車への駆け込み乗車に⁽²⁾を立てていたはずの友人が、赤信号を^(ア)ムシして道路を走って渡^{わた}るのを、主人公たちが見たという話です。

ここでは二つのことが前提となっています。ひとつ目は、駆け込み乗車はいけないということ。もうひとつは、赤信号で道路を渡るはいけないということです。もう少し教科書の内容を説明しますと、主人公たちは、駅に駆け込み乗車を禁止するポスターが貼^はられているのに、また赤信号で道路を渡るはいけないと学校などいわれているのに、なぜやる人がいるのかと不満に思っています。どうしてみんな決まりを守らないのかと。そこで、みんながハッピーになる「決まり」について考えようというのです。

さて、みなさんはこれまでの話を読んでどう思われましたか？ よくできた教科書だと思われたかもしれません。この話を読んで、みんながハッピーになる決まりについて考えた子どもたちは、「駆け込み乗車をしない」「赤信号では渡らない」という結論を導き出してくれることでしよう。そしてきつと、これからは駆け込み乗車を控^{ひか}えるでしようし、赤信号で道路を渡^{わた}ることも少なくなるでしよう。でも、はたしてそれだけでいいのでしようか？

「ハッピーマナー」は、^{*}指導要領との関係でいうと「集団・社会の公徳心・規則の尊重」に該^が当^{とう}します。そこで、「心のノート」の該^が当^{とう}箇所^{かしよ}を見ました。すると、四ページにわたって項目が割^きかれてあります。タイトルには「やくそくやきまりを守るから仲よく生活できる」とあり、結論めいた箇所には「どんなときでもやくそくやきまりを大切に……これが人間のすばらしさです」とあります。あとは身の周りの「きまり」を書く欄^{らん}があるだけです。

もうおわかりかと思いますが、教科書や「心のノート」がいたいことは、仲よく生活するために決まりを守ろうということなのです。当たり前じゃないかと突^つ込まれそうですが、本当にこれを当たり前^{あたりまえ}とっていいのでしようか。⁽³⁾それが私の疑問です。

まず、「ハッピーマナー」の話で大前提にされていた、駆け込み乗車や赤

決まりの本質がわかったら、人がそれを守らなければならない理由もわかると思います。それは自分がやりたいことをスムーズに行うためです。ではなぜ人は、そんな自分のための決まりをわざわざ破^{やぶ}ってしまうのでしようか？ これもじつは同じ理由からです。本来はルールを守るべきなのだけれども、時にはルールを破^{やぶ}ったほうが自分のやりたいことをよりスムーズに実現できる場合があるのです。

^D、その場合の問題は同じルールを共有している仲間に迷^{めい}惑^{わく}がかかる恐れがあるということです。逆にいうと、仲間に迷惑^{めいわく}がからなければ、ルールを破^{やぶ}って自分のやりたいことを優先しても問題ないといえるかもしれません。いや、むしろそのほうが^(オ)ゴウリの^だといえるでしよう。どういふことかという、誰^{だれ}から見ても非難^{びなん}されないことが正しさの条件のひとつだからです。もちろん決まりを守っていれば、人から非難^{びなん}されることはありません。なぜなら、人に迷惑^{めいわく}をかけることがないからです。とするならば、人に迷惑^{めいわく}をかける恐れがないなら、ルールを破^{やぶ}ってやりたいことを実現しても、それはやはり正しいということになるのではないでしようか？

以上の話を駆け込み乗車と赤信号での横断に当てはめてみましょう。すると、ドアが閉まりかけていて、人がたくさん乗っている電車に駆け込み乗車するのは、決まりを破^{やぶ}っているうえに、人に迷惑^{めいわく}がかかるから正しいとはいえません。赤信号でも、車が来ているような場合には、道路を渡るのは危ないので正しくないでしよう。

しかし、もし誰も乗っていない電車で、ドアが閉まりかけているわけではないようなとき、遅^{おそ}刻^{こく}しないようにその電車に飛び乗るのはいいのではないでしようか？ 赤信号で明らかに車が来ないようなとき、道路を渡るのもいいのではないでしようか？ そうした行^{ぎやう}為^ゐは正しいといえる可能性があるのでないでしようか？

私がいいたいのはそういうことなのです。このような考察を経てやつと、私たちは真の意味で道徳を身につけることができるように思うのです。誰かが正しいといったから正しいと思ひこむ、あるいは誰かが決まりだといったから守るようになるなどというのが道徳の目的ではないはずで、私たちが教育の場で道徳を学び教えるのは、本当の意味で正しく生きるためであるはずで、そのためには、物事を根源から考え直す必要があるのです。

(小川仁志「道徳」を疑えー)

信号で道路を渡ることの禁止については、それが「決まり」であるということとで、この点については疑^う余地^{よち}さえ与^よえられていません。

^Aなぜ駆け込み乗車はいけないのか、なぜ赤信号で道路を渡ることがいけないのか、そのこと自体を根源から考えさせることのほうが、本当は大事なのではないでしようか？ 駆け込み乗車はポスターに禁止と書いてあるからだめなのではないはずで、赤信号でも、車が来ていなければ道路を渡^{わた}っていいと考える文化もあります。

したがって、日本という社会において、なぜそれらが禁止されているのか、なぜその禁止を「決まり」にしているのかを論^{ろん}じる必要があるのです。そうでないと、キム・ジョンウンがいつているからしたがうというのと同じになってしまいます。「そんなばかな」と思わないでください。戦前の日本では、そうやって教育勅語^{きくこ}に敬礼^{けいれい}し、敬礼^{けいれい}しない人は不敬罪^{ふけいざい}に問^とわれかねなかったのですから。

これは北朝鮮^{ちようせん}であつた話ではなく、数十年前の日本で当たり前のように行^{おこな}われていたことなのです。いや、いまもお同様のことが行^{おこな}われているといつても^(イ)カゴン^{かこん}ではありません。それが駆け込み乗車の禁止や赤信号での横断禁止なのかもしれないのです。

それでも、もしかしたら、正しい決まりならやみくもに守らせたいいいじゃないかという人がいるかもしれません。正しい決まり？ 正しい決まりとはいったい何なのでしようか？ もしその決まりが本当に正しいなら、⁽⁴⁾なぜそれを破^{やぶ}る人がいるのでしようか？ そもそも決まりとは何なのでしようか？ 順^{したが}に考^{かんが}えてみましょう。

まず決まりとは何かからいきましょう。決まりとは、「道徳」の教科書によると、みんなが仲良く暮^くらすための決め事^{きめごと}ということになります。これは私も賛成です。人はひとりで生^なきているわけではありません。私たちは共同体で助け合^{たすけあ}いながら生^なきているのです。^B人が^(ウ)フクスウ集^{しゆ}まつて共^{とも}に行動^{ぎやうどう}するところでは、どこでも決め事^{きめごと}を^(エ)セッテイ^{せいてい}します。友達同士でも、学校でも、地域でも、職場でも、そして国家でも。国家の決め事を法律^{りっぽう}というわけでは、

^C決め事は、他者と共同で何かをする場合の共通のルールといつていいでしよう。それを決めておかないことには、お互^{たがひ}い望^{のぞ}まない行動をとつてしまい、それらが衝突^{しょうとつ}することになります。その結果、お互いにスムーズにやりたいことができなくなつてしまふのです。

★指導要領：文部科学省が告示する教育課程の基準。

問一 — (1)「ハッピーマナー」というタイトルの面白い話」とありますが、これは小学生に何を教えるためのものですか。解答らんに合うように本文中から二十字以内で抜^ぬき出^だしなさい。

《二十字以内》ということ。》

問二 — (2)に入れるのに最もふさわしい漢字一字を答えなさい。

問三 — (3)「それが私の疑問です。」とありますが、筆者は現在の道徳の教科書や授業に批判的^{ひはんてき}です。それは現在の道徳の教科書や授業がどのような内容であるからですか。解答らんに一行ずつ、合わせて二行以内で説明^{しやうめい}しなさい。

問四 — (4)「なぜそれを破^{やぶ}る人がいるのでしようか？」とありますが、その理由^{りゆう}を筆者はどう説明^{しやうめい}していますか。四十字以内で説明^{しやうめい}しなさい。(句読点^{くうてん}も含^もみ、必ず一マスを用^{もち}いること。)

問五 — 筆者は、人が必ず「決まり」を守るためにはどうする必要があると述べていますか。解答らんに一行ずつ、合わせて三行以内で具体的に説明^{しやうめい}しなさい。

問六 — ^A ^Dに入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つずつ選^えび、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用^{しやうじよう}します。)

ア ところが イ だから ウ つまり エ そもそも

問七 — (ア) (オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 決まりとは他者と共同で何かをする場合の共通のルールのことであり、これを決めておかないと自分がやりたいことを実現することとはできない。

イ 決まりとはみんなが仲よく暮らすための決め事のことであり、このルールのおかげでそれぞれの人がやりたいことをスムーズに実現することができる。

ウ 決まりとは正しいことを守らせるためのルールであり、この決め事がなければ人は助け合いながら他者と共に行動していくことができない。

エ 決まりとは人が多く集まるところに必ず存在するものであり、このルールを守ることでは人は本当の意味において正しく生きることができない。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

星子の進路については、これまで兄妹で幾度も幾度も話し合いを重ねたはずだ。福祉を学んで、⁽¹⁾この町でそれを生かした仕事に就きたい、と願うことのどことが、⁽²⁾兄は不服なのだろうか。

そこまで陸別に縛られなくて良い——友達にもそう言われたけれど、どうしてそう決めつけられてしまうのか、星子にはわからない。

そつと★ガンビーの前を離れ、来た道を戻る。

左手に、昔ながらの板張りの廃屋が残っている。長い板材を横に用いて幾枚も重ねた外壁は、開拓時代の名残りの建築法だった。歪んだ窓ガラスは年代を感じさせる。大々的な町づくりが行われる以前の陸別町では、この形の住宅ばかりだった、と聞いている。

およそ防寒に役立ちそうもない、こうした儉しい住まいで、星子の両親は育ち、祖父母から前の世代のひとは生きたのだ。それを思うと、星子の心はしんと静かになる。

陸別が拓かれた時から、脈々と繋がれてきた町への想い。今は亡きひとびとの、町への温かな眼差し。そうしたものが年々削がれていくような気がして、星子は寂しくてならなかった。同級生たちの意識が町の外にあるからこそ、星子は町の中に目を向けていたい、と願う。そうした気持ちは、未だに両親が健在であったなら、持ちえなかったものかも知れない。

廃屋の前で立ち止まり、星子は深く息を吸い込む。見上げる空は十勝晴れ、雲ひとつない澄んだ青空だった。

「前に話した通り、帯広には優れた演技指導者のいる高校があるの。学校としても演劇部の活動に力を入れているし、あなたの才能を伸ばす環境も十分に整っているのよ」

月曜日の放課後、案の定、星子は校長室へと呼び出されて、校長と担任の二人から出願変更を勧められた。担任の熱心な説得を聞きながら、星子は膝に置いた手にきゅつと力を込める。

「私、志望校を変更するつもりはありません。このまま予定通り、置戸の高校を受けます」

固い声で答える星子を前に、担任はふうつと溜息を洩らし、校長に首を振ってみせた。

「そう簡単に結論を出さないでほしい」

30

25

20

15

10

5

それまでソファに深く腰掛けていた校長は、身を乗り出すようにして星子の顔を覗き込んだ。眼鏡の奥の瞳に有無を言わさぬ力が籠っている。

「君のお兄さんは、私にこう言ったんだよ。妹が兄である自分のことや、この町のことを想う気持ちはわかる。けれども、十五歳にはもつと選択肢があつて良い。妹には自分の人生を懸けて夢に向かって行く勇氣を持つてほしい、と」

★星子は半分泣きそうになって、きゅつと唇を引き結んだ。そんな星子の双眸を見つめて、校長はこう続ける。

「お兄さんの気持ちを大切に思うなら、せめて今夜一晚、自分と向き合つて考えなさい」

校長と担任のふたりに頭を下げて、星子は逃げるように学校をあとにした。

積雪の帰路にひとの姿はなく、星子はひとり、目を乱暴に擦りながら歩いた。声を上げて泣きじゃくりなくなるのを、辛うじて堪えていた時だった。

「星子！」

「星子、星子！」

坂の下から和美と春菜が大声で呼んでいる。

「ロケ！ 映画のロケやつてるよ！」

「分線の踏切んとこ！」

早く早く、とふたりは懸命に手を振った。

普段は通るひとも殆どない踏切周辺にひとが溢れている。いずれも知った顔ばかりだ。

「ああ、星子ちゃん」

その姿を認めて、少しずつ道を譲ってくれるのは、星子に撮影現場を見せてやろうと思えばこそなのだろう。導かれるまま、人垣の前に出た。

見せ場の撮影なのか、スタッフが固唾を呑んで見守る中、テレビで馴染んだ人気の男優が相手役の頬を張る。手加減なしの、派手な音がした。

「一緒に行こう、って言ったじゃない。何処までも一緒に行こうって」

哀しい表情で男優に絡むのは、星子と四つしか違わない若い女優だった。

——ほくたち一緒に行こう。みんなの本当の幸を探しに、何処までも何処までも一緒に行こう——

星子の耳もとに、星子自身の声が帰ってくる。映画のロケの現場のはず

60

55

50

45

40

35

問六

――(6)「もう一度、繰り返した。」とありますが、それはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 青柳の話聞き、青柳の言った言葉や生き方にあこがれの気持ちをもったから。

イ 青柳の話聞き、青柳と自分は違う世界に住んでいることを気づかされたから。

ウ 青柳の言葉によって、今までの自分の思いをもう一度考え直そうと思ったから。

エ 青柳の言葉によって、兄や先生たちの言っていたことが初めて理解できたから。

問七

本文を場所の変化という点で四つの場面に分けたとき、第四場面はどこからですか。最初の五字を答えなさい。(読点や記号などがあれば、それも一字に数えること。)

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 兄や先生たちなど多くの人が星子の進路について助言をしてくれたが、それぞれ言うことが異なり、星子はどの意見に耳を傾ければよいのか悩んでしまった。

イ 兄も先生たちも青柳も星子の進路についてこの町に残る必要はないと助言したので、最初は反発していた星子もしだいにそう思うようになっていった。

ウ 兄も先生たちも福祉を学びたいという星子の思いを受け入れてくれなかったが、青柳だけはその思いを受け入れ、星子の進路についての助言を与えてくれた。

エ 星子の進路について助言してくれた人たちの中で青柳だけが星子の置かれた状況を理解してくれたので、青柳の言葉だけに星子は耳を傾けることができた。

氏名

1 / 100

5点
ということ。

3 点

6点

[illegible]

6点

--

7点

A	
B	
C	
D	

2 点 × 4

2点^三×4

(ア)	
(イ)	
(ウ)	
(エ)	
(オ)	

2点×5

5点

5点

[illegible]

5点

一		二		三		四		五	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

1点×5

1点×5

5 点

5点

5 点

5点

6 点

6点

/ 50